

1. 「治療開始前及び治療終了後における小児の取り扱い」

板家小児歯科医院 D.H.

河 井 美由紀

小児歯科医院を受診する患児の多くは、就学前児（3～5才児）であり、ほとんどの患児には、歯科治療は、初めての経験である。この事は、患児にとって、未知の体験に対する不安、母親から離れるという不安も多く、又、同じ姿勢を長時間保たなければならないためあまり快いものではない事が多い。この歯科治療を、低年齢児（3才未満）でも協力的に行える患児や、泣きながらもある程度の協力は得られる患児等がいる一方、恐怖心が強く治療に対して協力が困難な患児、全くの不協力児等がいる。私達には、各々のタイプの患児にあった応対というものが必要となってくる。そこで、治療をスムーズに進行させるには、来院から診療台に上がるまでの患児の心理状態や周囲の雰囲気、術者やアシスタントの応対が大きく左右する。すなわち、治療前の患児には、多かれ少なかれ不安がつきまとるので、私達は、少しでも患児の不安を軽減するような努力が必要である。又、次回の来院では、今日よりも更に患児の協力を得るため、診療室から医院を出るまでの私達の応対というのも、充分配慮しなければならない。

患児は、歯科治療を経験していく中で、我慢する心や自立心を覚える事でそれが自信につながり、又、術者やアシスタントとの信頼を深める事で安心が得られる。私達は、歯科治療が患児の成長過程の中での精神面において、良い糧をもたらす事を願う。

今回、私達は、各々の年齢、タイプに分けて治療前（医院に入る時、待合室で、診療室への導入、ブラッシング時、ユニットに上がるまで）、治療後（母親の元へ連れていくまで、治療内容の説明時、医院を出るまで）のそれぞれの場合における小児の取り扱いについて、注意事項や問題点を発表する。